

テーマ：景気動向指数（2018年5月）

発表日：2018年7月6日（金）

～C I一致指数は4ヶ月ぶりの低下。4-5月均しても戻りは弱い～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○持ち直しのペースは鈍い

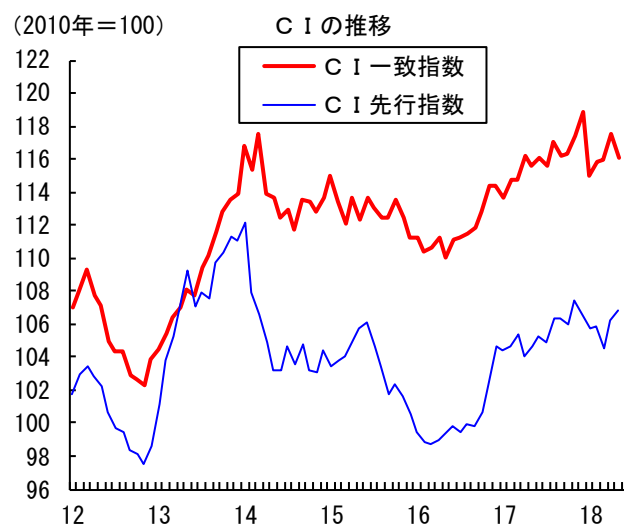
内閣府から公表された2018年5月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差▲1.4ポイントとなった。内訳では、耐久消費財出荷指数や投資財出荷指数、生産財出荷指数など、出荷関連のマイナス寄与が大きい。4月分では出荷関連が押し上げ要因になっていたが、5月はその反動が出た格好だ。

C I一致指数は4ヶ月ぶりの前月差マイナスとなり、低下幅も比較的大きい。4-5月平均でみれば1-3月期の水準を1.0%Pt上回っているが、直近のピークである17年10-12月の水準は0.6%Pt下回っており、18年1-3月期の落ち込み分を取り戻し切れていない。持ち直しの途上にはあるものの、その戻りは強いものではないという評価になるだろう。

1-3月期に下押し要因となった野菜価格の高騰という問題が解消されており、個人消費で反発が見込めること、好調な海外景気を受けて輸出が増加基調で推移すること、設備投資が好調に推移することなどを背景に、4-6月期の景気は1-3月期の落ち込みからのリバウンドが見込めると予想しているが、反発度合いが思いのほか小さくなるリスクに注意が必要だろう。

○基調判断は「改善」維持

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、20ヶ月連続で「改善」なった。前月差では比較的大きなマイナスとなったものの、3ヶ月後方移動平均前月差の値は+0.10と2ヶ月連続でプラスであり、基調判断は「改善」が維持されている。



(出所)内閣府「景気動向指数」